

酒とパソコンと少々のもろく

モニタリング

成光 昭男

夏に3人の孫を連れて帰省してきた長女が抱えてきた糠床が、どうやら無事に年を越せそうです。

これまでも何度かチャレンジしてきた糠漬けですが、三日坊主の見本のような著者はなかなか上手く管理が出来ずに夏を越すことができなかったのですが、今回は少しだけ気合を入れて、娘の指示を忠実に守り、1日2回のかき混ぜをさぼらず、今日を迎えています。

では何故、今回は上手く行っているのだろうか、その要因を考えてみました。

第一に、出来上がった状態の糠床から始めたため、管理を始める段階で、糠床のあるべき姿、あるべき味を確認できたことが大きい。

糠床の作り方は、参考書を見ればいくらでもあります。参考書では味はわからないし、水分の状況も実感できません。単に、糠、塩、水、その他の材料の重さが書いてあるだけで、これでは、糠床のあるべき姿は見えて来ないのです。

当然、どんな状態で糠床を管理すれば良いかも分からないと言う事になります。

しかし、今回は見本となる糠床からスタートしたのですから分かりやすい。見本の味を見て、塩加減、水分、発酵状態を確認することができた訳です。専門用語で言えば、モニタリング手法を取得できたことが大きかったと思います。

第二に、連れ合いの協力が得られたこと。

糠床の管理は専ら私の役割で、連れ合いは、手が臭くなるためか、あまり協力的ではありません。このため、お泊り(多くは飲み方で)の翌日には糠床が悲惨な状態になることもしばしばであったのですが、今回は少し事情が違いました。

何しろ、今回の糠床は、長女の嫁ぎ先のお姑さんから分けて頂いたものですから。簡単に腐らす訳にはいかないと考えたのでしょうか、連れ合いがやけに協力的になったのです。

糠床が上手く育つか、腐らすか、ちょっとしたことで、こんなに違うものなのですね。

モニタリングと言えば、飼料設計どおりに飼料を給与しているのに、乳量が伸びないと相談を受けることがあります。

そんな場合は、飼料設計どおりに飼料が牛の口に入っているかを確認します。多くの場合、飼料設計と実際に牛の口に入っている飼料には差があります。その差が著しくなると、乳量が伸びなかったり、繁殖成績が悪化したり、何かと不都合なことが起きてきます。

乳牛が十分に飼料を食べているかを確認することはそれほど難しいことではありません。例えば、腹が十分に膨れているか、よく横臥して反芻しているかを確認すれば分かることです。

ところが、困ったことに、私たちは少しずつ変化する事には気が付きにくいようです。自分の子供は毎日見ているので気が付かないのに、久しぶりに会った人から、「大きくなったね」とはよく言われますよね。

自分の乳牛を毎日見ている酪農家の皆さんは、意外と乳牛のちょっとした状態の変化には気が付きにくいかも知れませんね。

時々、酪農仲間や技術員と乳牛の状態の目合わせをすると良いかも知れませんね。

もし、乳牛が飼料設計通りに食べていなかったら、いくつかの原因が考えられます。

- ①飼料設計に誤りがある。
- ②設計通りの飼料を与えていない。(計量、水分率の誤差)
- ③飼料が美味しくない。
- ④飼槽の構造が悪い。
- ⑤水が十分に飲めない。
- ⑥食べたいときに飼料がない。
- ⑦温湿度指数(THI)が高い。
- ⑧乳牛の体調が悪い。
- ⑨その他

DMIの向上対策の話題は来年に続きます。

今年も大変お世話になりました。年末年始のDMIの摂取過剰に注意しながら(これは自分のこと)、良いお年をお迎えください。